

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

<御嶽山の噴火警戒レベルを改定し、令和4年4月18日14時より運用を開始します>

御嶽山では、剣ヶ峰南西斜面の想定火口を79-7火口から地獄谷火口に見直し、噴火警戒レベルを改定しました。それに伴い、本日（18日）14時00分に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を切替えました。

防災上の警戒事項等：

剣ヶ峰南西斜面の地獄谷火口から概ね1kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

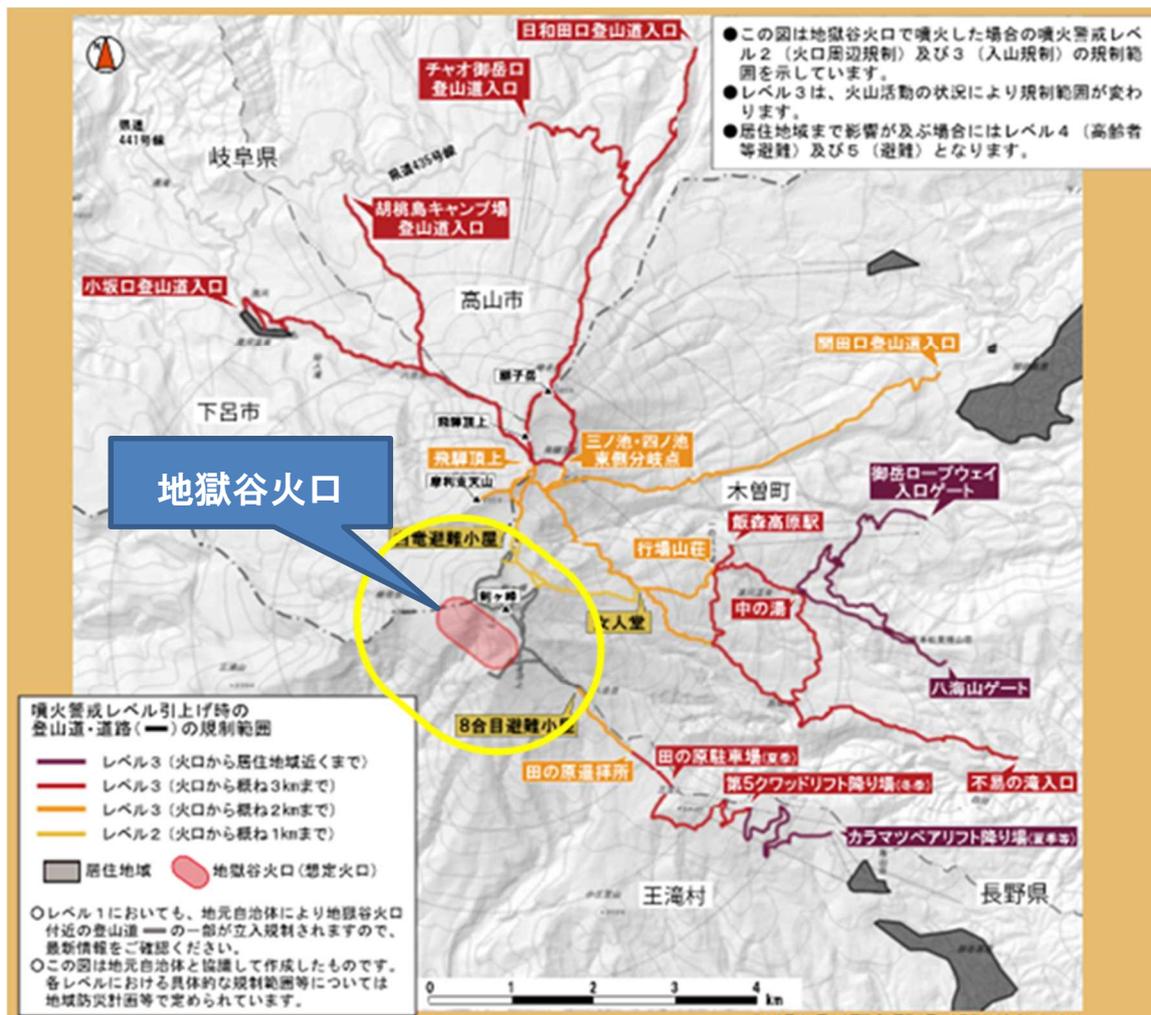


図1 御嶽山 噴火警戒レベルに応じた警戒が必要な範囲（噴火警戒レベル改定後）

- ・改定後は、1979年及び2014年の噴火の火口列を考慮した火口域（地獄谷火口）が想定火口となります。
- ・黄色で囲む領域は、改定後の噴火警戒レベル2に応じた警戒が必要な範囲を示しています。

・火山活動解説資料のページ https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
・資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>



図2 御嶽山 噴火警戒レベルに応じて警戒が必要な範囲(噴火警戒レベル改定前(参考))

- ・改定前は、1979年噴火の主火口(79-7火口)からの噴火を想定して、警戒が必要な範囲が定められていました。
- ・黄色で囲む領域は、改定前の噴火警戒レベル2に応じた警戒が必要な範囲を示しています。

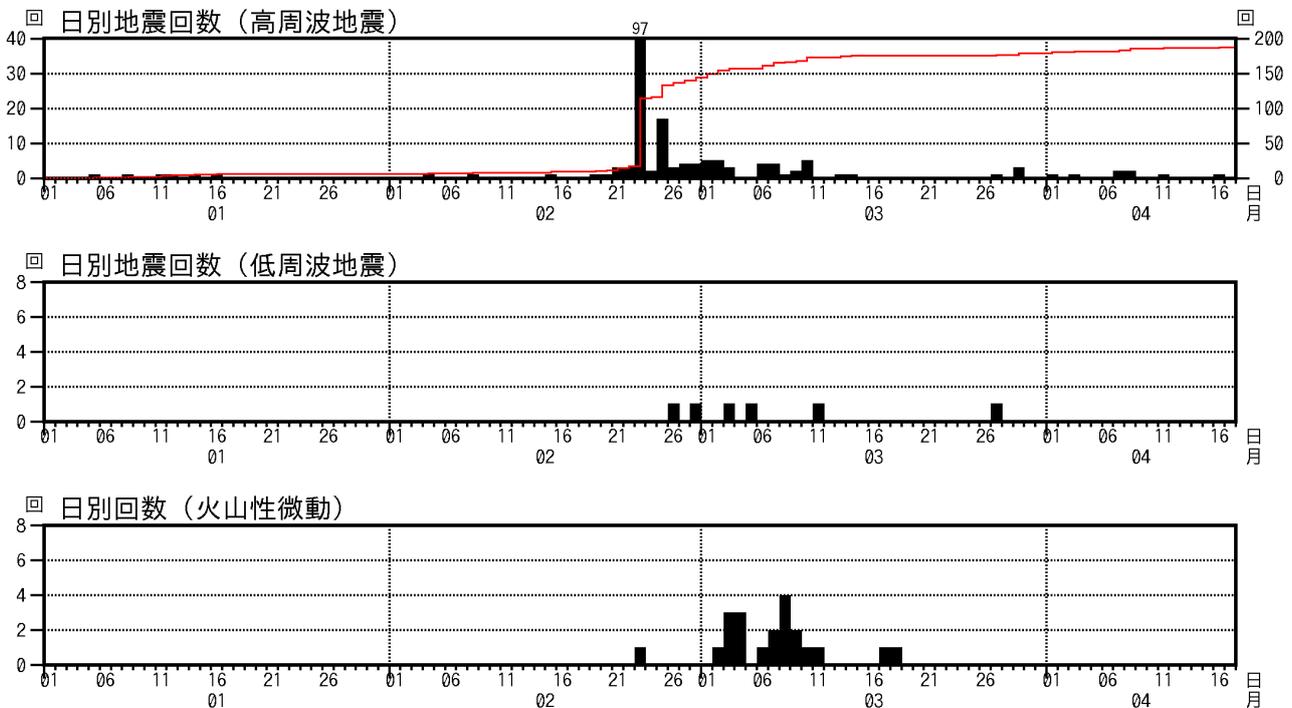


図3 御嶽山 日別地震回数 (2022年1月1日～4月17日)

- ・2月23日に火山性地震が増加して以降、火山性地震及び火山性微動が増減を繰り返しながら引き続き発生しており、2月23日以前に比べ、地震活動がやや高まった状態が続いています。